

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール 研究報告

## 学外志向の関連要因

---

2012年2月

文教大学 情報学部 広報学科 3年

長谷川 由貴

## 目次

第1章 調査研究の概要	
1.1 調査研究の目的と背景	...2
1.2 調査に関連する状況	...3
1.3 調査研究の方法	...4
1.4 成果の概要	...5
第2章 調査研究の成果	
2.1 調査回答者の概要	...7
2.2 分析の方法	...8
2.3 自分を変える行動	...9
2.4 英語学習意欲	...11
2.5 外国人の友人	...13
2.6 海外労働可	...15
2.7 大学の受容性	...16
2.8 経済的自立	...19
2.9 日本の国際化の進展	...19
2.10 まとめ	...20
第3章 まとめと今後の課題	...22
参考文献	...23
単純集計結果	...24

## 第1章 調査研究の概要

### 1.1 調査研究の目的と背景

この数年で、企業が外国人留学生を採用したり、海外移転したりする話題が増え、就職する学生の環境も変化してきた。しかし、留学する学生は減っていることから、最近の学生は「内向き志向」などと言われている。

それだけ国際化が進んでいるなかで、何故、学生は留学しようとならないのだろうか。留学する目的としては、語学力を高めるため、という人が多いかもしれない。しかし、留学するメリットはそれだけではない。留学経験によって、沢山のことを学び、意識が変化したりするはずである。

実際に私も、オーストラリアで5週間の語学留学を行い、語学以外でも得たものが多かった。異文化について、知識として持つてはいても、生で見たり、聞いたりすることで、もっと知りたい、という気持ちになった。また、日本の中から見ると、海外に出て見る日本には違いがある。日本の中の自分であったのが、世界の中の日本の中の自分、という意識に変化した。

そこで、留学経験のメリットがわかるような調査をしたい、と考えた。日本で長い間生活をしてきて、初めて海外に行き、改めて日本にいた自分について考え直す。マス・メディアを通じて知っていたとしても、実際に行って見るのとは、感じ方が違う。世界が広がることによって、自分の欠点などを見つけて、より成長させることができる。

そのように、成長させることは、世界を広げるという点では、留学経験に限ったことではない。実際に職場に行き、社会人や、他大学の学生と接するインターンシップ。年齢や職業を問わず交流する機会がある、ボランティア活動。その他にも様々な行動によって、世界は広がる。

自分の周りの人を見ていて、何か行動をしている人は一つに限らず、様々な行動をしている人が多いのではないかと、思う。そこで、留学経験やインターンシップ、ボランティア活動などに取り組む人には、何か共通したものがあるのではないかと、考えた。人によって、それぞれ行動する姿勢に違いがある。様々な行動をしている人は、積極的だと考えられる。また、様々な人と会うことによって、人は変わるはずである。その出会いが多ければ、そしてその出会いが異なる価値観であるほど、その人に大きな変化を及ぼすはずである。

このように、世界を広げ、成長する機会となり得る学外での行動。この行動を促す様々な要因を明らかにし、また、そのような行動に至る背景は何なのかについても明らかにしたい。

## 1.2 調査に関連する状況

### (1) 大学生の留学者数の減少

10年度の米国への日本人留学者数は、ピーク時(1997年)の約45%。国別では、1位中国、2位インド、3位韓国の順で、日本は7位に転落した。

留学者数の減少は、米国だけではなく、海外大学への日本人留学者数はピーク時(2004年)から、2割減少した。

### (2) 企業の海外進出

企業は、「人口減少で市場が縮む日本から海外へ軸足を移している」(大和総研、原田泰顧問)状況で、就職試験の際に、TOEICのスコアで制限を設けるなど、新卒で入社する学生も、国際化の進展を実感させられる。

しかし、産業能率大学が10年の新入社員400人を対象に調査したところ、「海外勤務を希望しない」が49%。その主な理由は言葉の壁であるという。

### (3) 留学の目的

ブリティッシュ・カウンシルは、留学に興味を持つ男女15~34歳を対象に留学意識アンケート調査を行った。「留学で得られるメリットは何ですか。」の問いに対して、「語学力が向上する」が約7割、「異文化に触れることで人生が豊かになる」が約6割、「コミュニケーション能力が高まる」「行動力がつく」「自信がつく」は約5割であった。

また、日本学生支援機構が、過去15年以内に留学経験のある20~40代を対象に行った調査では、留学の動機は、「語学を本場で学びたいから」が最も多く約6割、次いで「外国生活により視野を広げたかったから」も6割近く占めた。留学で得たものについては、「海外生活体験」が最も多く約8割、その他に「語学力の向上」「異文化理解・異文化適応能力」「友人」「人間関係の幅が広がった」がある。今後の人生に役立つか、との問いに対して、約95%が「役立つと思う」と答えた。

### (4) ボランティア活動

日本学生支援機構が、大学2・3年生を対象にボランティア活動の調査を行った。ボランティアを経験した学生の約65%が、「満足している」と答え、その理由として、「楽しかった」「もの見方・考え方が広がった」「友人や知人を得ることができた」が上位を占めているという。また、ボランティアに参加する動機として、「困っている人を助けたいから」「新しい人と出会いたいから」が上位に上がった。

### 1.3 調査研究の方法

#### (1) 進捗経緯

- 4～5月 調査テーマ討論
- 6月 調査テーマ決定・調査テーマ具体化
- 7～9月 討論・調査表作成
- 10月～11月 調査実施・回収・単純集計報告
- 12月～2月 報告書作成

#### (2) 調査の概要

##### a. 調査の意図

留学経験を始めた学外での行動は学生にどのような影響があるのか、調査する。

##### b. 調査対象者

文教大学湘南キャンパス学生(2～4年生)

##### c. 調査方法

授業時間内にアンケート用紙配布・回収

##### d. 主な質問項目

- ・学外での活動内容
- ・アルバイト・日本・将来・大学に対する考え方
- ・自己満足度
- ・飲み会参加状況
- ・英語学習状況
- ・海外接触度

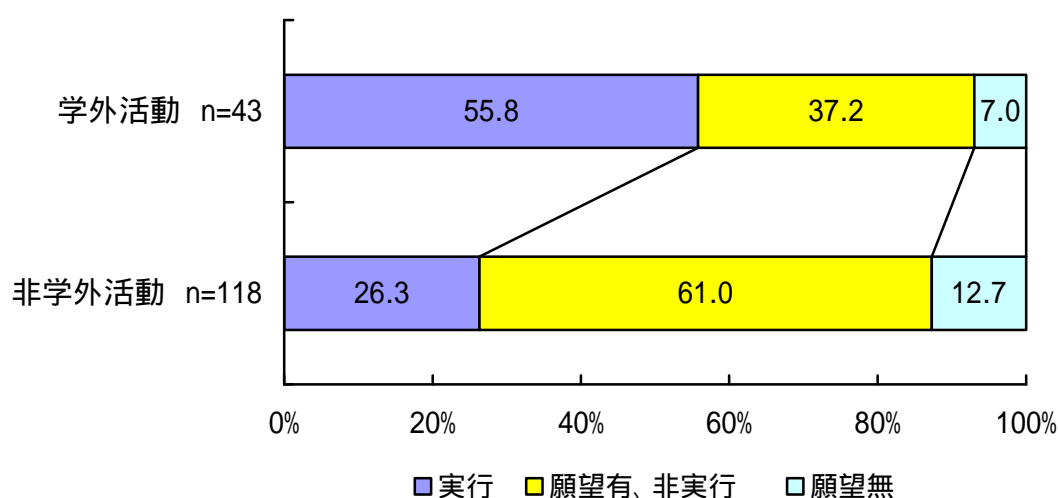
##### e. 依頼数と回収数

	依頼数	回収数	
翻訳入門	45	43	
通訳入門	14	14	
システム分析	65	64	
文章演習F	21	21	
文章演習F	27	27	
計	172	169	無効票 3

#### 1.4 成果の概要

例えば、学外活動をしている43名としていない非学外活動の118名のグループが「自分を変える行動」をしているか否かの集計結果を図1-4-1に示す。この図によると、明らかに学外活動をしている人は「自分を変える行動」を多くしており、非学外活動の人よりも有意に多い。このことにより、学外活動の有無と自分を変える行動の有無は密接な関係を持っていることが分かる。

図1-4-1 学外活動と自分を変える行動( 2乗: \*\* )



このような集計を「学外活動」の有無に限らず、「インターンシップ」の有無、「留学経験」の有無のグループについても行い、その結果をまとめたのが表1-4-1である。

ボランティアや学外のサークルなどの学外活動、企業で就業体験をするインターンシップ、留学経験、これらの行動をする人には、共通点が多くあることがわかった。

例えば、学外活動とインターンシップに参加するという行動は、英語や国際意識とは直接結びつくものではない。「英語の勉強」、「TOEICの受験」、「外国友人の存在」などの海外志向が強く現れている。それらは留学経験とほぼ同じ強さである。これは学外志向が即海外志向に直結するという事態を表わしており、極めて注目すべき現象である。学生の意識の中には、実はこの様にグローバル志向が潜在しているのである。

次に、自分の居る大学を誇りに思ったり(2.7)、入学の満足度が高かったり(2.7)、大学の居心地がよかったりする(2.7)と言う点での大学の受容性については、インターンシップ参加、学外活動、留学経験の有無によって、違いがあることがわかった。

表 1 - 4 - 1 学外志向の活動と関連要因

関連要因	学外活動	インターンシップ	留学経験
2.3 自分を変える行動	強	弱	中
2.4 英語学習	強	中	強
2.4 TOEIC を受験	強	中	強
2.5 外国友人の存在	強	強	強
2.6 海外労働	強	強	強
2.7 この大学への誇り	中	強	強
2.7 大学入学満足		強	強
2.7 大学居心地良好	弱(逆)	強	強
2.8 経済的自立に自信		強	弱
2.9 日本の国際化の進展			強

(注) ここでは、集計分析結果時のグループ間の有意差の度合を表わす p を用いて、関連性の強弱を判断した。

強 0.05      0.05 < 中 0.20      0.20 < 弱 0.40      0.4 < 空欄

学外活動は特にこれらとは関連がないが、インターンシップ参加者、留学経験者は、全般に大学に対して肯定的な考えを持っていることが分かった。これらは大学に対する肯定的な判断の上で成立しやすい行動を見ることが出来る。この辺は意識面での興味ある傾向である。

## 第2章 調査研究の成果

### 2.1 調査回答者の概要

調査対象者は、文教大学湘南校舎の学生169名で、「翻訳入門」「通訳入門」「システム分析」「文章演習F」の2クラス、の計5クラスで、紙面によるアンケート調査を実施した。

なお回答標本は無作為抽出で作成してはいたないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2-1-1と表2-1-2で確認しておく。

表2-1-1の学年別の分布では、3年生が過半数であり、次に2年生、4年生と続く。1年生は0人で、3年生が主な対象者となっている。また表2-1-2の性別の分布では、母集団では男子の方が多少多く、回答者とは逆だが、ほぼ均等となっている。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定され则认为られる。

表2-1-1 回答者と母集団の比較

	1年	2年	3年	4年	計
回答者	0 (0)	26.6 (45)	59.8 (101)	13.6 (23)	100.0 (169)
湘南キャンパス 学生	25.0 (853)	27.4 (932)	23.0 (781)	24.6 (837)	100.0 (3403)

(注) 母集団は湘南キャンパス 2011.10 末時点である。

表2-1-2 回答者と母集団の比較

	男子	女子	計
回答者	48.5 (82)	51.5 (87)	100.0 (169)
湘南キャンパス 学生	51.3 (1747)	48.7 (1656)	100.0 (3403)

(注) 母集団は湘南キャンパス 2011.10 末時点である。



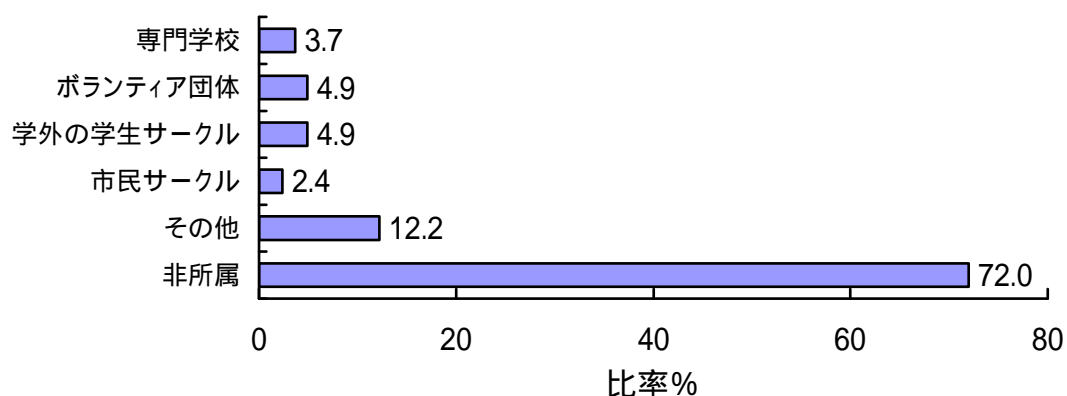
## 2.2 分析の方法

本研究では、主に3つの観点から調査データを分析していく。それらは、何らかの学外活動、インターンシップ経験、海外留学である。の場合、「学外活動をしているグループ」と「学外活動をしていないグループ」に回答者を分け、2つのグループ間で差を生じている要因が何かを調べることである。2つのグループ間に大きい差を生じている項目があるとすれば、その項目はグループ差をつくり出している要因と見ることができる。具体的にはグループ別の集計(クロス集計 or グループの平均の集計)について、有意差が大きい項目ほど、グループ差に寄与する割合の高い要因と見ることができる。と について、グループ差を見る集計を行うことにより、グループ差を作り出している要因を知ることができる。以下にこのような分析結果を見ていく。

そこでまず、これらのグループが、どのような状況にあるかを見る。

### (1) 学外活動

図2-2-1 学外活動状況 (n=164)

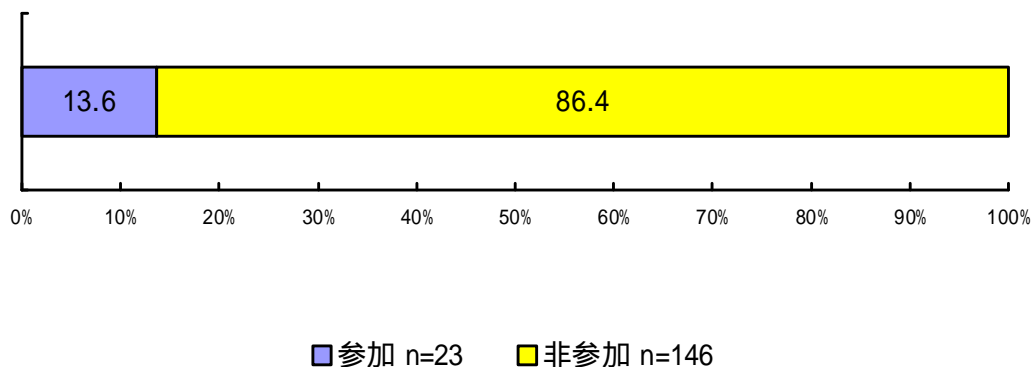


何ら学外活動をしていない非所属の人は約7割(118人)で、残りの43人がしている人である。内容は専門学校、ボランティア活動、学外の学生サークル、市民サークルなどである。

これから分析では、このグラフで学外活動をしているグループ43人を「学外活動」と、学外活動をしていないグループ118人を「非学外活動」として使うことにする。

## (2) インターンシップ参加

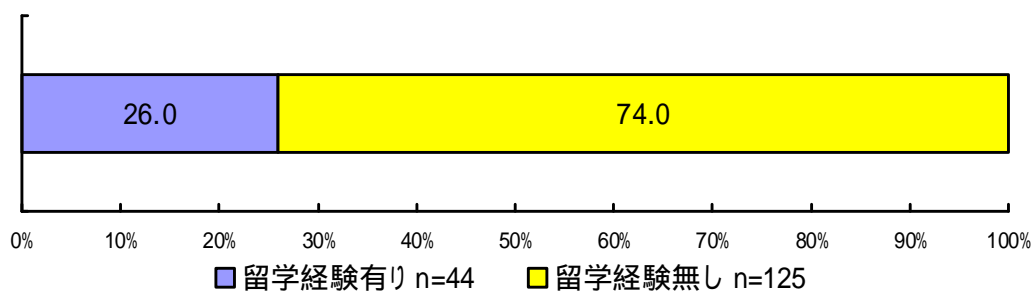
図 2 - 2 - 2 インターンシップ参加状況



インターンシップに参加している人は、約1割であり、残りの人が参加していなかった。今後は「インターンシップ参加」、「インターンシップ不参加」の2グループで分析結果を示していく。

## (3) 留学経験

図 2 - 2 - 3 留学経験状況



留学経験のある人は、全体約3割ほどであった。留学期間は、1ヶ月以上3ヶ月未満と3ヶ月以上半年未満が多く、約7割を占めていた。今後は「留学経験有り」、「留学経験無し」の2グループで分析結果を示していく。

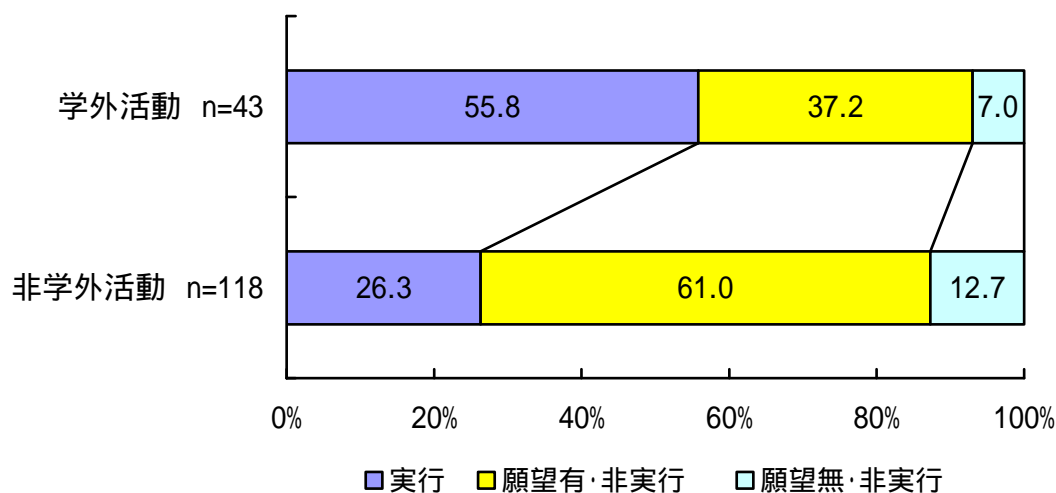
## 2.3 自分を変える行動

自分を変えたいという意識を持ち、自分を変える行動をしているのか、という問いをつくり、その願望があるか、そして、実際に行動に至っているかを聞いた。

調査では、現在自分を変える行動を行っているか否かを用いている。選択肢は「している」、「したいがしていない」、「していない」である。それで、学外活動の有無の2つのグループ毎に自分を変える行動の有無について集計をした(このタイプの集計を以降ではクロス集計と呼ぶ)。結果

を図2 - 3 - 1に示す。

図2 - 3 - 1 学外活動と自分を変える行動( 2乗 : \*\* )



その結果、学外活動をしているグループは、自分を変える行動をしていると答えた人が約6割で、約3割だった学外活動をしていないグループを大きく上回った。また、自分を変えたいという思いはあるが、実際にはしていないという人は、学外活動をしていないグループ約6割で学外活動をしているグループを大きく上回った。なお、有意確率  $p=0.002$  である。

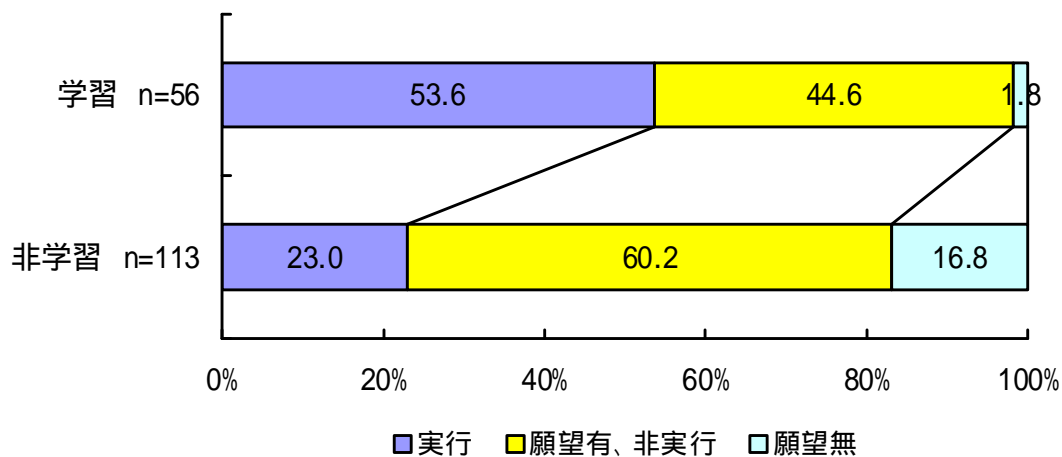
また、インターンシップの参加の有無でも、同様の傾向があり、参加者では、自分を変える行動をしていると答えた人が約4割、不参加者では、約3割であった。

次に英語学習の有無と自分を変える行動の有無をクロス集計した。

その結果、英語学習をしているグループでは、自分を変える行動をしている人が約5割、願望はあるが実際には行動していない人で約4割であった。願望もない人は、わずか約2%であった。また、学習をしていないグループでは、自分を変える行動をしている人が約2割、自覚はあるが実際には行動していない人で約6割。自覚もない人は約2割にも上り、英語学習をしている人としていない人の間で大きな差が見られた。

このことから、自分を変える行動の一つとして、英語の学習があると考えられる。

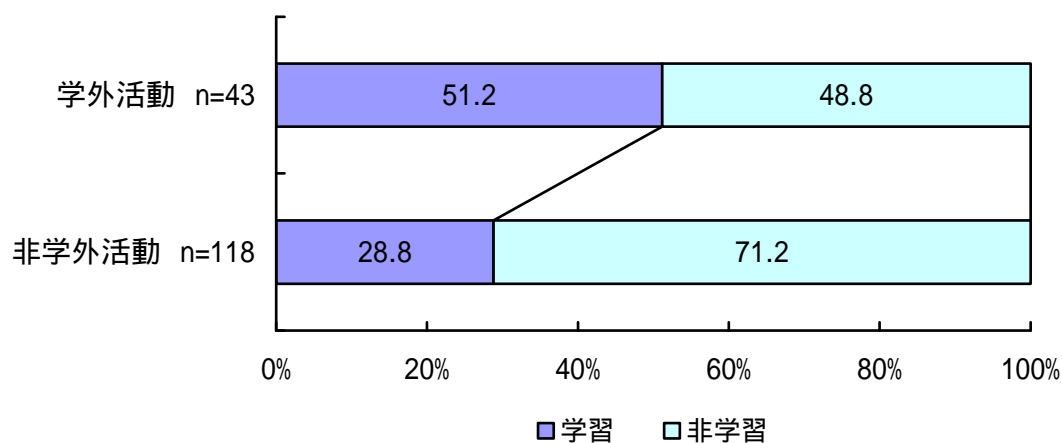
図2 - 3 - 2 英語学習と自分を変える行動( 2乗:\*\*\*)



## 2.4 英語学習意欲

### (1) 英語学習状況

図2 - 4 - 1 学外活動と英語学習状況 ( 2乗:\*)



英語学習状況を問う設問で、英会話教室に通いながら勉強していると答えた人と、自分で勉強していると答えた人を同じグループにまとめ、英語を勉強しているグループとしていないグループに2分した。

そして、学外活動をしているグループとしていないグループの2つのグループ間で、英語学習状況に違いがあるか、集計した。その結果を図2 - 4 - 1に示す。

その結果、学外活動をしているグループで、英語を勉強している人は約5割であった。しかし、

学外活動をしていないグループでは、約3割に止まり、圧倒的に勉強していない人の方が多かった。なお、 $p=0.008$ である。

インターンシップ経験の有無でも、有意確率は0.055で有意差は見られなかったが、同様の傾向があった。インターンシップに参加しているグループで、英語を勉強している人は約5割で、インターンシップに参加していないグループでは、約3割であった。

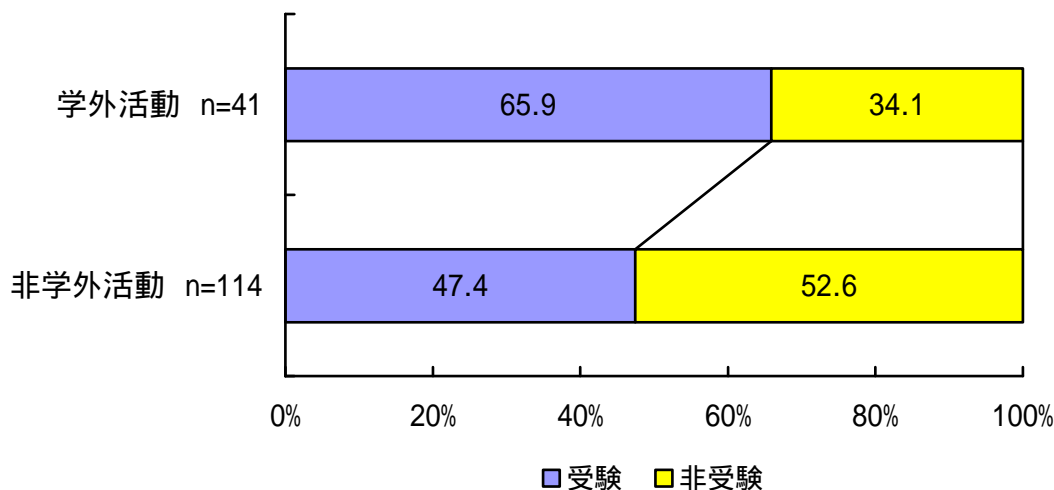
このことから、学外での行動と英語学習の有無には関連があり、学外で行動をしている人ほど、英語を勉強する傾向にあることが分かった。

さらに、英語学習をする理由についてどんな違いがあるか調べるため、英語の学習状況について、学外活動の有無とクロス集計した。

その結果、両グループとも「TOEICの点数のため」が最も多く、次に「就きたい職業のため」が多かった。理由に大きな違いはなかったが、学外活動では、「なんとなく」と答えた人の割合が約2割、非学外活動グループでは、約5%でいることから、学外活動をするグループは、理由が明確でなくても行動する傾向にあるのかもしれない。

## (2) TOEIC受験の有無

図2-4-2 学外活動とTOEIC受験 (2乗:\*)



TOEICの点数を問う設問で、TOEICを受験したことがあるグループと、ないグループに2分し、学外活動の有無とTOEIC受験の有無でクロス集計をした。

その結果、学外活動をしているグループの約7割が受験したことがあるに対し、していないグループでは、約5割に止まった。なお、 $p=0.047$ である。

また、インターンシップ参加の有無でもクロス集計をしたところ、参加グループの方が参加していないグループよりも、TOEICを受験していた。

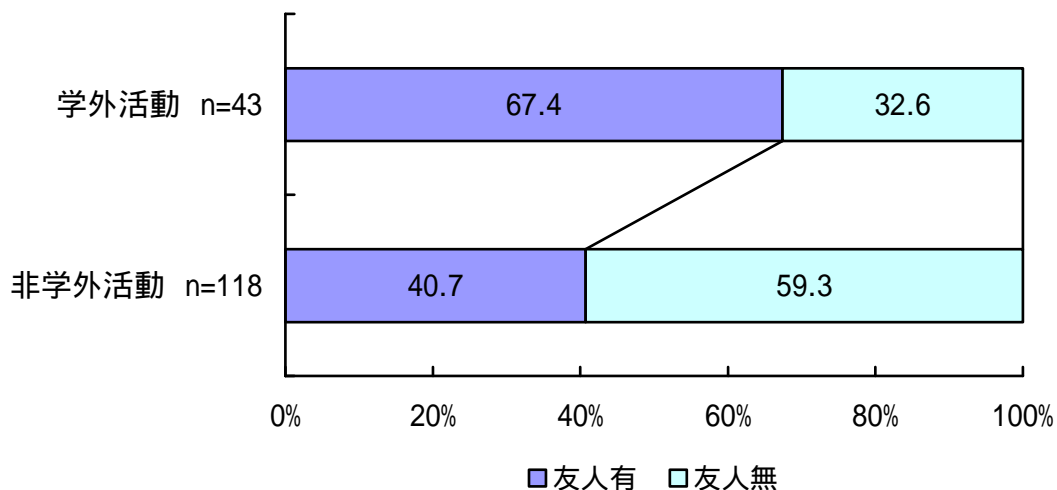
そのため、学外での行動をしている人の方が、TOEICを受験しているということが分かった。

TOEICの点数については、両グループ間で大きな違いはみられず、ともに500点台が最も多く、続いて400点台、600点台（非学外活動グループでは400点未満も同数）であった。

## 2.5 外国人の友人

### (1) 外国人の友人の有無

図2-5-1 学外活動と外国人の友人（2乗：\*\*）



次に、学外活動の有無と外国人の友人の有無をクロス集計した。ここでは、外国人の友人を問う設問で、ネット上でのみで有り、と答えた人も、友人有のグループに加えた。

その結果、学外での活動をしているグループで学外での活動をしているグループの約7割が、外国人の友人がいると答えた。これに対し、学外活動をしていないグループでは、約4割であった。

インターンシップ参加の有無でグループ分けをしても、参加したグループで外国人の友人がいると答えた人の方が約7割で、約5割だった不参加グループを上回った。なお  $p=0.042$  である。

そのため、外国人の友人の有無においても、学外での行動をしている人の方が外国人の友人も多いことが分かった。

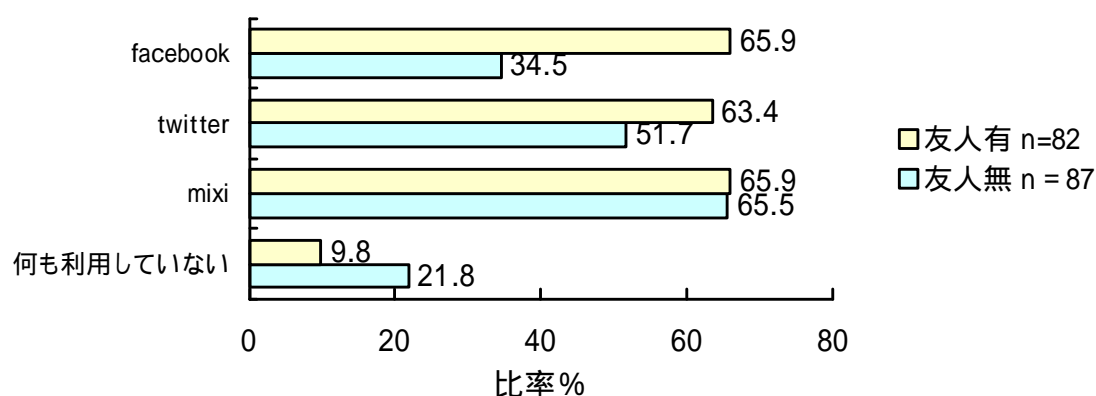
友人の人数や会う頻度にそれぞれのグループ間でクロス集計したところ、有意な差は見られなかった。

友人の数では、インターン参加の有無・学外活動の有無の両方で、5人未満の人が過半数を占めていた。会う頻度では、1年に1回以下と答えた人が約半数であった。週1回以上会うと答えた人は約2割に満たなかった。

## (2) SNSの利用状況

SNSの利用状況を聞くことで、ネット上であったとしても人間関係の広さを計れると考えられる。mixiは日本国内向けのサービスであり、アメリカ発のfacebookの方が外国人も利用しているため、海外でできた友人であっても、facebook上で交流できる。ここで参考に、外国人の友人の有無と利用しているサービスの関連を示す。

図2 - 5 - 2 外国友人とSNSサービス



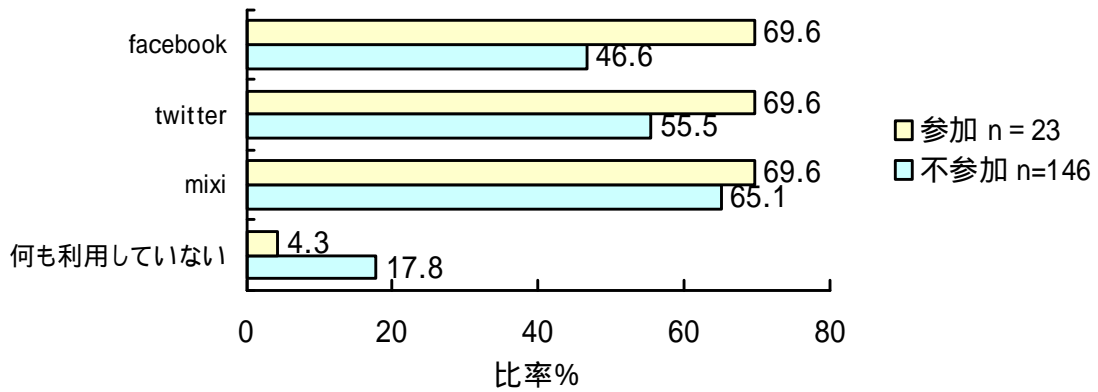
その結果、facebookの利用をしている人は、外国人の友人がいると答えた人が、いない人の約半分であったため、やはり外国人の友人の有無と利用しているサービスの状況に関連があることがわかる。

次に学外活動とインターンシップ参加状況で、それぞれサービスの利用状況をクロス集計した。結果を図2 - 5 - 3に示す。

インターンシップ参加者は、3つ全てで不参加のグループを上回った。こちらでも、facebookの利用については、両グループ間で差があることがわかった。

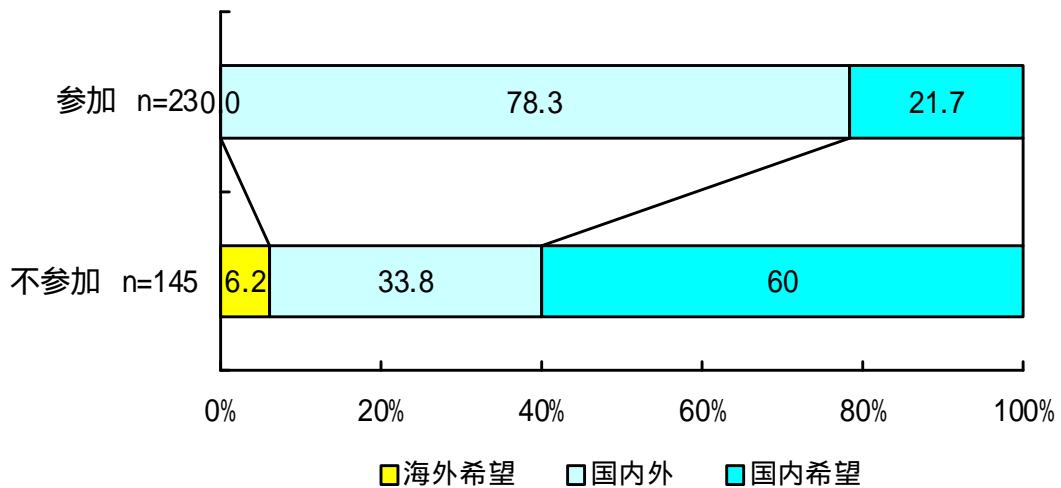
ちなみに、学外活動経験の有無では、3つ全てで学外活動をしているグループがしていないグループを上回ることにはなかったが、インターンシップと同様にfacebookの利用においては、学外活動をしていないグループを上回っていた。mixiを利用している割合は、学外活動をしていないグループの方が高かった。

図 2 - 5 - 3 インターンシップ参加とSNSサービス



## 2.6 海外労働可能性

図 2 - 6 - 1 インターンシップ参加と海外で働く意欲( 2乗:\*\*\*)



インターンシップ参加の有無と海外で働く意欲について、クロス集計した。

その結果、海外を希望している人、国内を希望している人はともに、インターンシップに参加していない人の方が多かった。インターンシップ参加者は、国内でも海外でもどちらでも良いと答えた人が約8割に上った。しかし、不参加グループでは約3割であったため、参加グループの方が場所に捕らわれないようだ。仕事を選ぶ際に、国内・海外にこだわらず、自らのしたい仕事をするという考えが伺える。なお、 $p=0.000$ である。

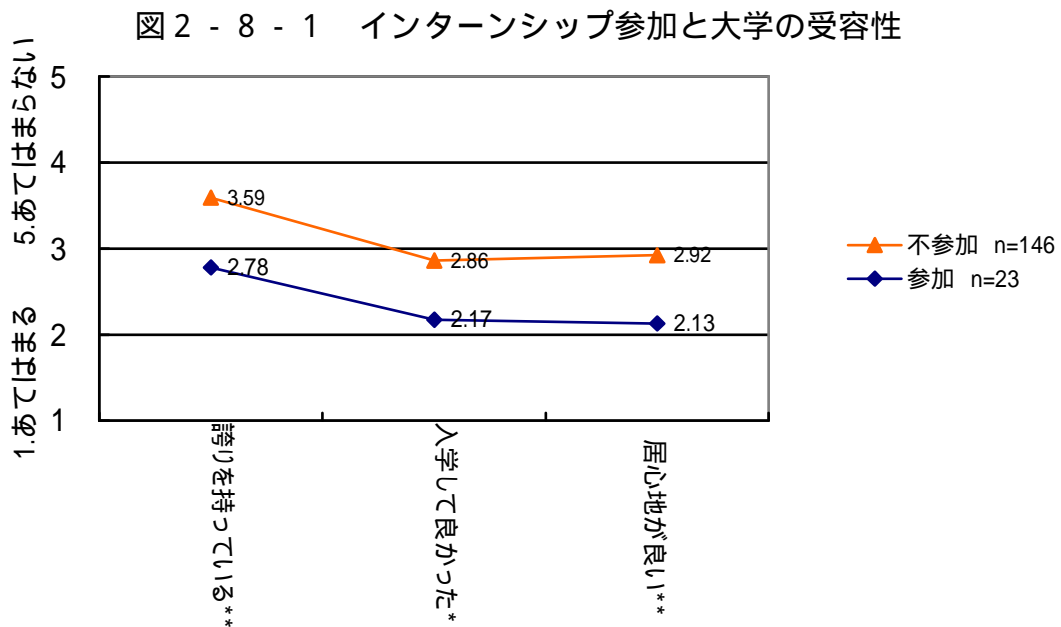


学外活動の有無でもクロス集計をしたところ、有意差は見られなかったものの、学外活動をしているグループの方が、国内外どちらでも良いと答えた人の割合が高かった。しかし、海外のみで希望している人の割合は、インターンシップ参加の有無とは違い、学外活動をしているグループの方が高かった。

これらの結果から、学外での行動をしている人は、国内での就職にこだわらない傾向にあり、国際化の進展に意識が向いていると考えられる。

## 2.7 大学の受容性

### (1) インターンシップ経験と大学の受容性



インターンシップの有無と別に大学の受容性として取り上げた3項目の調査結果を集計した。

なおここでは、各項目ともに、「1.あてはまる」～「5.あてはまらない」の5段階で調査しており、グループ別のこれらの回答番号の平均値を利用して、グラフを作成した。

3つ全てで、参加経験のあるグループの方が、大学に対して肯定的な評価をしていることがわかる。「大学に誇りを持っている」では、インターンシップに参加したグループでは、3以下であり、どちらかといえばそう思う方に傾くことがわかる。しかし、インターンシップに参加していないグループにおいては、4に近い数値がでたことから、否定的意見を持つ人が多くいることがわかる。なおこの場合の平均値の差の有意差の有意確率  $p=0.003$  である

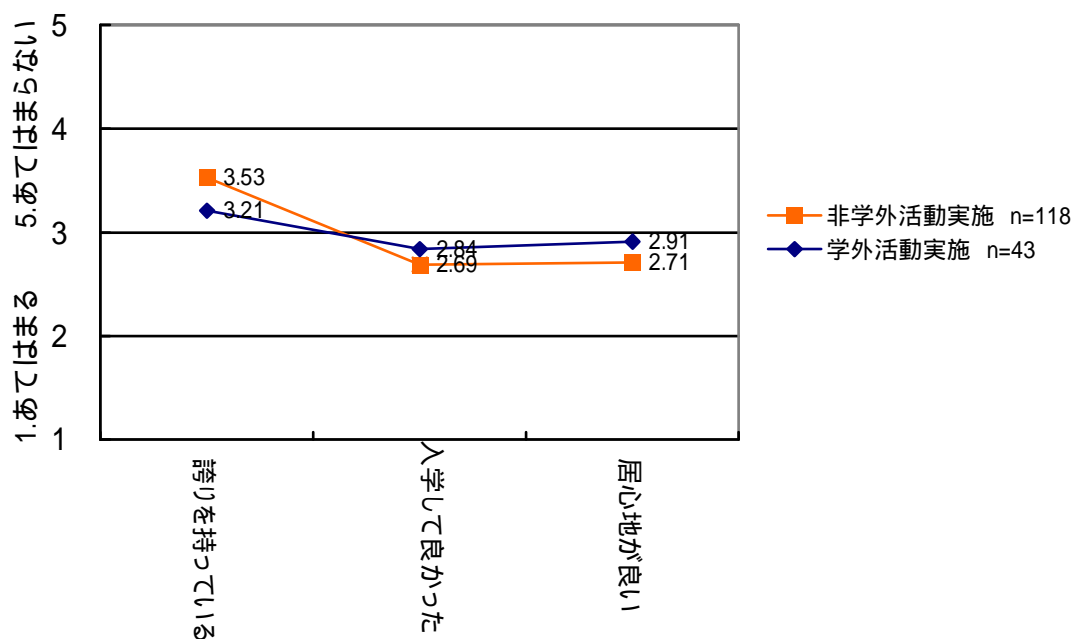
また、大学満足度に近い設問「入学して良かった」では、インターンシップ参加の有無を問わず、3を切っていることから、どちらかといえば満足している人が多いようである。また、大学の居心地の良さについても、どちらかといえば、そう思う人が多いようだ。この場合、 $p=0.013$ である。

インターンシップは文教大学内で経験するわけではない。それにも関わらず、インターンシップ参加経験の有無によってこれほどの差がでる要因は、大学生活の充実度にあるのではないだろうか。自分を変える行動を積極的にしている人たちは、英語を勉強し、学外でも様々な行動をしている。大学生活の充実度の高さが大学への満足度に繋がっているため、充実を実感できなかったり、自分の大学生活に疑問を持っていたりすると、大学への評価も下がるのではないだろうか。

留学経験者においても同じような結果がでたため、インターンシップや留学などの経験は、大学への満足度を高めると考えられる。

ただし、学外活動の有無でもクロス集計したところ、インターンシップ参加経験と同様の結果は得られなかった。

図 2 - 8 - 2 学外活動と大学の受容性



「大学に誇りを持っている」という問いに対して、両グループとも3を超えており、否定的意見を持っていることが分かったが、学外活動をしているグループの方が肯定度は高かった。その理由として、考えられるのは、他大学の人との交流があるからではないだろうか。大学に誇りが

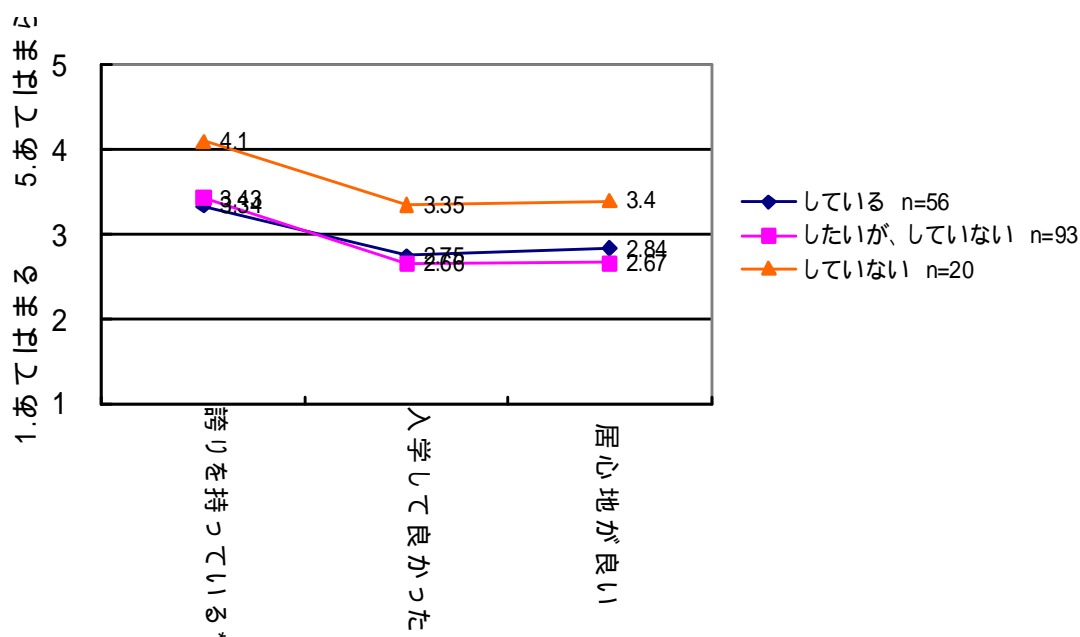
あるからこそ、他大学の人も交流できるのだと思う。なお、 $p=0.143$ である。

「入学して良かった」と、「居心地が良い」では、前の集計と異なり、反対の結果となった。学外活動をしていないグループの方がしているグループよりも、肯定的な評価をしている。有意差はなく、わずかな差ではあったが、なぜこのような結果となったのか。その理由として考えられるのは、学外活動をしている要因として、大学での居心地の悪さや、愛着の無さがあるのではないだろうか。そもそも、学内の団体に所属せず、わざわざ学外での活動を選ぶという時点で大学に対して、否定的意見を持っていた、ということが考えられる。しかし、その明確な理由は分からない。Pはそれぞれ、0.491と0.385である。

これらの集計結果から、自分を変える行動をしていると答えた、留学経験者等の学外での行動をしている人たち。そして、その人たちは、学外活動の有無による集計を除き、大学に対する肯定度も高かった。

では、自分を変える行動をしている人は、大学に対する評価も高いのではないだろうか。

図2 - 8 - 3 自分を変える行動と大学の受容性



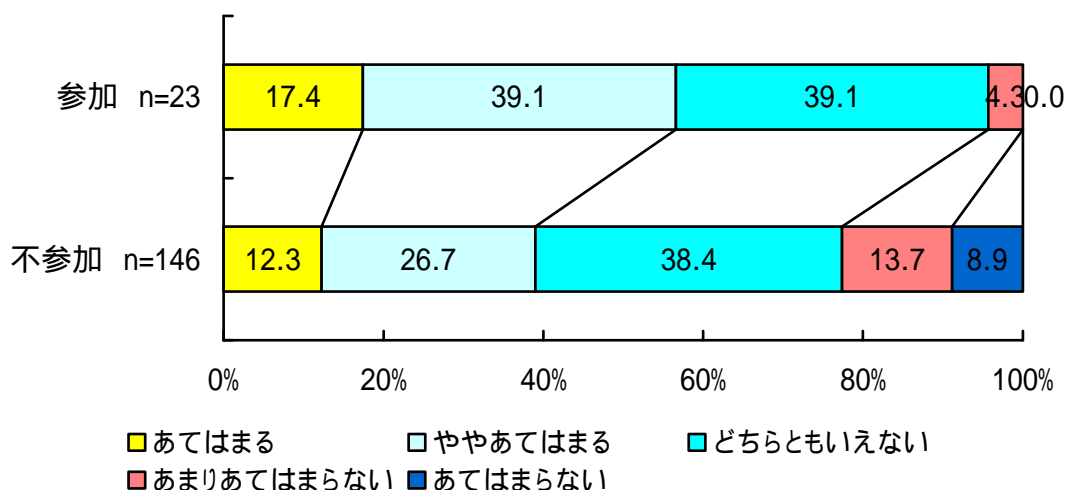
自分を変える行動の有無と大学に対する評価をクロス集計した。

その結果、やはり、自分を変える行動をしている人の方が大学に対する評価は高かった。自分を変える行動をしていると答えた人と、変えたいと思いながらも行動できていない人、両グループにあまり差は見られず、していないと答えたグループとの大きな差があった。なお、 $p$ はそれ

ぞれ、0.044、0.074、0.064である。

## 2.8 経済的自立

図2-8 インターンシップ参加と自立できる自信



インターンシップ参加の有無と、将来自立できる自信があるか、をクロス集計した。

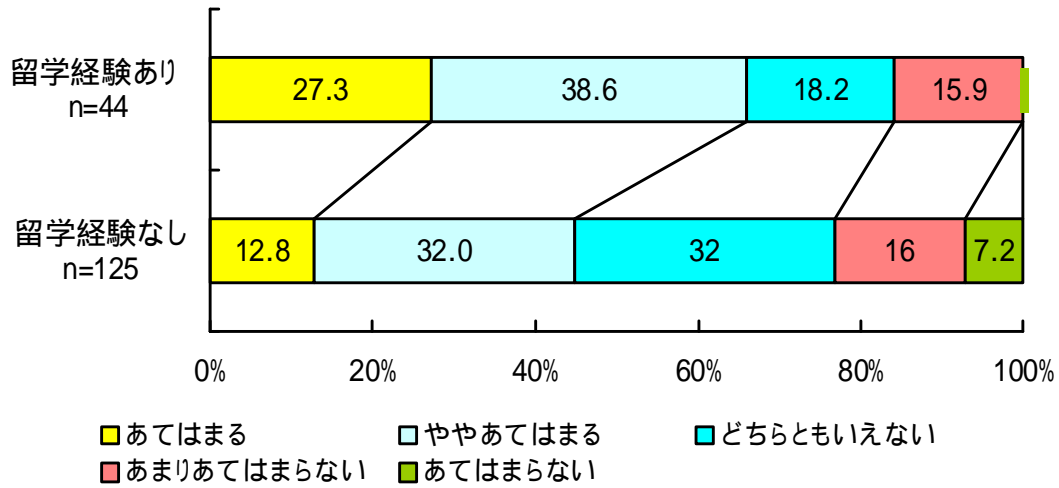
その結果、インターンシップに参加している人のほうが、自立できる自信がある度合いが高いことが分かった。参加したグループでは、約6割が自立できる自信があると答えているが、不参加グループでは、約4割にとどまった。なお  $p=0.296$  である。

## 2.9 日本の国際化は進展

留学経験の有無と、日本の国際化は進展すると思う、の肯定度を5段階で問う設問をクロス集計した。結果を図2-9-1に示す。グループ間に有意差があり、 $p=0.042$  である。

その結果、留学経験のあるグループでは、約7割が肯定しており、ないグループでは、約4割に止まった。このことから、留学経験がある人の方が、日本の国際化は発展すると考えていることがわかる。

図2 - 9 - 1 留学経験と日本の国際化肯定感( 2乗:\*)



## 2.10 まとめ

これまでの集計で、学外活動・インターンシップ・留学経験の3つで似た傾向を持つ集計結果を上表に示す。

「逆」と書いてある、学外活動の「この大学は居心地が良い」の欄は、他の2つと逆の結果であったという意味で、その他は、同様の傾向がある設問である。たとえば、「自分を変える行動をしている」であれば、3つの行動全てにおいて、肯定度が高いということがこの表から読み取れる。強・中・弱は、有意差を表し、「強」は有意差があり、その傾向が強いことがわかる。

例えば、学外活動とインターンシップに参加するという行動は、英語や国際意識とは直接結びつくものではない。「英語の勉強」、「TOEICの受験」、「外国友人の存在」などの海外志向が強く現れている。それらは留学経験とほぼ同じ強さである。これは学外志向が即海外志向に直結するという事態を表わしており、極めて注目すべき現象である。学生の意識の中には、実はこの様にグローバル志向が潜在しているのである。

次に、自分の居る大学を誇りに思ったり(2.7)、入学の満足度が高かったり(2.7)、大学の居心地がよかったりする(2.7)と言う点での大学の受容性については、インターンシップ参加、学外活動、留学経験の有無によって、違いがあることがわかった。

表2 - 10 - 1 学外志向の活動と関連要因

関連要因	学外活動	インターンシップ	留学経験
2.3 自分を変える行動	強	弱	中
2.4 英語学習	強	中	強
2.4 TOEIC を受験	強	中	強
2.5 外国友人の存在	強	強	強
2.6 海外労働	強	強	強
2.7 この大学への誇り	中	強	強
2.7 大学入学満足		強	強
2.7 大学居心地良好	弱(逆)	強	強
2.8 経済的自立に自信		強	弱
2.9 日本の国際化の進展			強

(注) ここでは、集計分析結果時のグループ間の有意差の度合を表わす p を用いて、関連性の強弱を判断した。

強 0.05      0.05 < 中 0.20      0.20 < 弱 0.40      0.4 < 空欄

### 第3章 まとめと今後の課題

学外での行動として、アルバイトや、学内サークル・部活動、飲み会への参加など、様々な経験で、2章で述べてきたような何らかの傾向の違いがあるか、も集計分析した。しかし、それらでは何らかの一つの傾向のようなものは見つからず、結果として、学外の団体（専門学校やボランティア団体など）、インターンシップ、留学経験の3つでしか、一致する傾向が見られなかった。

表2 - 2 - 7から分かるように、学外活動・インターンシップ・留学経験のある人は、国際意識が高いことが分かった。留学経験者が、英語を勉強したり、外国人の友人を作ったりして、国際意識が高いのは当然の結果かもしれない。元々国際意識が高いからこそ、留学をしたのだと思う。

しかし、インターンシップに参加したり、ボランティア活動などの学外の団体に所属したりすることは、国際意識と直接結びつかない。全く関連の無さそうな2つの行動でなぜこのような結果が得られたのだろうか。

その要因の一つとして、人間関係の広まりが、考えられる。様々な人と出会い、自分はこのままではいけない、という考えから、自分を変える行動をする。その行動の一つとして、海外へ目を向け、語学の学習をする人が多い。また、インターンシップなどの学外での行動を行い、海外留学も行う。そこで、より世界が広まり、海外への意識を向けるようになる。

または、その反対も考えられる。元々、行動力があるとしたら、様々な学外での行動をしているうちに、他者の影響などから、もっと自分を成長させたい、という思いに変わった可能性がある。そして、その思いから、とりあえずは英語を勉強しよう、といった経緯かもしれない。

いずれにせよ、学外での自主的な行動と前向きな姿勢、国際意識、自分を変えたいと考えることに関連があることが分かった。それらが、どのように関わりあっているのか、さらに深く検証する必要がある。

また、調査の前は、留学経験の効果について調べたいと考えていたが、今回の調査で明確な答えは得られなかった。留学経験や、その他の学外での行動を調べるには、実施する前後で調べる必要があった。そのような行動を起こす以前から、行動をしようとする人の間には違いがあるはずで、行動していないグループ、行動しているグループで分けても、留学経験の効果についてはわからない。今回のように1度に行う場合は、留学をする人としない人の違いを検証することになるため、そこに焦点を当てた仮説をたてるべきだった。次回は、そのことに注意して、調査したいと思う。

## 参考文献

朝日新聞 1月29日朝刊

ブリティッシュ・カウンシル:

<http://www.britishcouncil.org/jp/japan-about-us-press-room-press-releases-20100702.htm>

日本学生支援機構「海外留学経験者の追跡調査:

[http://www.jasso.go.jp/study\\_a/keikensha.html](http://www.jasso.go.jp/study_a/keikensha.html)

日本学生支援機構「学生ボランティア活動に関する調査報告書」:

[http://www.jasso.go.jp/syugaku\\_shien/documents/houkoku\\_02.pdf](http://www.jasso.go.jp/syugaku_shien/documents/houkoku_02.pdf)



## 学 外 活 動 の 調 査 単 純 集 計 結 果

情報学部広報学科 ハツ橋ゼミ 長谷川由貴

ゼミのための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問1 大学に入学してから、インターンシップには参加しましたか。(1つに ) n = 169

1 . した      13.6	2 . していない      問3へ	86.4
------------------	--------------------	------

問2 インターンシップはどの位の期間参加しましたか。(1つに ) \*複数回ある場合は述べ期間

n = 23

1 . 1ヵ月以上      39.1	2 . 2週間以上1ヵ月未満      30.4	
3 . 5日以上2週間未満      21.7	4 . 5日未満      4.3	無回答      4.3

問3 現在、学内のサークルまたは部活に所属していますか。(1つに ) n = 169

1 . している      57.4	2 . していない      42.6	
--------------------	---------------------	--

問4 サークル・部活動でリーダーをしていますか。(あてはまるもの全てに ) n = 97

1 . サークルの代表      4.1	2 . 部活動の部長      2.1	3 . していない      91.8	無回答      2.1
----------------------	---------------------	---------------------	--------------

問5 所属しているサークル・部活動は、どのようなものですか。(あてはまるもの全てに )

n = 97

1 . 体育会系      33.7	2 . 文化系      44.6	3 . どちらともいえない      19.8	無回答      2.0
--------------------	-------------------	-------------------------	--------------

問6 アルバイトはしていますか。(1つに ) n = 169

1 . している      69.8	2 . していない      問8へ	30.2
--------------------	--------------------	------

問7 あなたがアルバイトを選ぶ際の条件はどのようなものですか。

下記の a・b の項目ごとにあてはまり具合を答えてください。(1つに ) n = 118

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
a . 自分が成長できるアルバイトを重視する	34.7	31.4	16.9	8.5	5.1	3.4
b . 必要な能力・素養が高いアルバイトを重視する	13.6	20.3	38.1	15.3	9.3	3.4

問8 あなたは学外で何かに所属していますか。(あてはまるもの全てに ) n = 169

1 . 専門学校      3.5	2 . ボランティア団体      4.7	3 . 学外の学生サークル      4.7	
4 . 市民サークル      2.3	5 . 何にも所属していない      68.6	6 . その他      11.6	無回答      4.7

問9 飲み会にはどの位の頻度で行きますか。(1つに ) n = 169

1 . 週2回以上      3.6	2 . 週1回程度      8.3	3 . 月1・2回程度      43.2	
4 . 2・3ヵ月に1回程度      31.4	5 . 半年に1回以下      3.6	6 . 全く行かない      問11へ	10.1

問10 飲み会をする時、幹事になることは多いですか。(1つに ) n = 152

1 . 多い      7.2	2 . まあまあする      28.3	3 . ほとんどない      64.5
-----------------	----------------------	----------------------

問11 学校の授業とは別に英語の勉強はしていますか。(1つに ) n = 169

- |                       |      |                       |      |
|-----------------------|------|-----------------------|------|
| 1 . 英会話教室に通いながら勉強している | 1.8  | 2 . 英会話教室には行かずに勉強している | 31.4 |
| 3 . していない             | 問13へ | 66.9                  |      |

問12 あなたが英語を学習する1番の理由はなんですか。(1つに ) n = 56

- |                     |      |                      |      |
|---------------------|------|----------------------|------|
| 1 . TOEIC の点数をあげるため | 39.3 | 2 . 自分が就きたい職業には必須だから | 30.4 |
| 3 . 趣味で話せるようになりたいから | 14.3 | 4 . なんとなく            | 10.7 |
| 5 . その他             | 5.4  |                      |      |

問13 あなたのTOEICのスコアは何点ですか。(1つに ) n = 169

- |               |      |             |     |            |      |
|---------------|------|-------------|-----|------------|------|
| 1 . 400点未満    | 5.9  | 2 . 400点代   | 9.5 | 3 . 500点代  | 16.6 |
| 4 . 600点代     | 7.1  | 5 . 700点代   | 1.8 | 6 . 800点以上 | 0.6  |
| 7 . 受験したことがない | 47.3 | 8 . 受験したが不明 | 7.7 | 無回答        | 3.6  |

問14 海外留学したことがありますか。(1つに ) n = 169

- |        |      |        |      |      |
|--------|------|--------|------|------|
| 1 . ある | 26.0 | 2 . ない | 問16へ | 74.0 |
|--------|------|--------|------|------|

問15 どの位の期間留学しましたか。\*複数回ある場合は述べ期間で(1つに ) n = 44

- |                |      |              |      |               |      |
|----------------|------|--------------|------|---------------|------|
| 1 . 1年以上       | 9.1  | 2 . 半年以上1年未満 | 4.5  | 3 . 3ヶ月以上半年未満 | 31.8 |
| 4 . 1ヶ月以上3ヶ月未満 | 38.6 | 5 . 1ヶ月未満    | 15.9 |               |      |

問16 外国人の友人はいますか。(1つに ) n = 169

- |         |      |                        |      |     |
|---------|------|------------------------|------|-----|
| 1 . いる  | 42.0 | 2 . インターネット上で繋がっている人だけ | 問19へ | 6.5 |
| 3 . いない | 19へ  | 51.5                   |      |     |

問17 その友人は何人位ですか。(1つに ) n = 71

- |          |      |           |      |           |      |
|----------|------|-----------|------|-----------|------|
| 1 . 1人   | 21.1 | 2 . 2人    | 14.1 | 3 . 3~4人  | 28.2 |
| 4 . 5~7人 | 8.5  | 5 . 8~10人 | 9.9  | 6 . 11人以上 | 18.3 |

問18 その友人の中で、最もよく会う人とは、どのくらいの頻度で会っていますか。(1つに ) n = 71

- |                |     |             |     |             |      |
|----------------|-----|-------------|-----|-------------|------|
| 1 . 週2回以上      | 9.9 | 2 . 週1回程度   | 8.5 | 3 . 月1・2回程度 | 8.5  |
| 4 . 2・3カ月に1回程度 | 8.5 | 5 . 半年に1回程度 | 9.9 | 6 . 1年に1回程度 | 53.5 |
| 無回答            | 1.4 |             |     |             |      |

問19 費用の問題がない場合、海外に行くならどこに行きたいですか。(1つに ) n = 169

- |           |     |           |      |           |      |
|-----------|-----|-----------|------|-----------|------|
| 1 . アジア   | 6.5 | 2 . アフリカ  | 1.8  | 3 . 北アメリカ | 12.4 |
| 4 . 南アメリカ | 2.4 | 5 . ヨーロッパ | 71.0 | 6 . オセアニア | 5.9  |

問20 就職先の決定に次の内、最も重要だと思うものはどれですか。(1つに ) n = 169

- |          |      |              |      |          |      |
|----------|------|--------------|------|----------|------|
| 1 . 仕事内容 | 60.9 | 2 . 給料       | 11.2 | 3 . 福利厚生 | 8.9  |
| 4 . 場所   | 3.6  | 5 . 会社名(知名度) | 1.2  | 6 . 社風   | 14.2 |

問 2 1 就職したい企業は決まっていますか。(1つに ) n = 169

1 . 具体的に就職したい企業がある	16.0	2 . 業界と職種は決まっている	14.8
3 . 業界だけ決めている	21.3	4 . 職種だけ決めている	18.9
5 . 全く何も決まっていない	28.4	無回答	0.6

問 2 2 あなたが就職する際、語学力は必要とされると思いますか。(1つに ) n = 169

1 . 思う	78.1	2 . 思わない	20.7	無回答	1.2
--------	------	----------	------	-----	-----

問 2 3 海外で働くことは考えていますか。(1つに ) n = 169

1 . 海外でも国内でもいい	39.6	2 . 海外で働きたい	5.3	3 . 国内でしか考えていない	54.4
----------------	------	-------------	-----	-----------------	------

問 2 4 あなたが現在利用しているサービスは何ですか。(あてはまるもの全てに ) n = 169

1 . twitter	57.4	2 . mixi	65.7	3 . facebook	49.7	4 . 何も利用していない	16.5
-------------	------	----------	------	--------------	------	---------------	------

問 2 5 授業以外の時間で最も時間を費やしていると思うものは何ですか。(1つに ) n = 169

1 . アルバイト	28.4	2 . 友人と過ごす	21.3	3 . 勉強	6.5
4 . 一人で勉強以外のことをする	20.7	5 . その他	21.3	無回答	1.8

問 2 6 あなたが日本に対する考えはどのようなものですか。

下記の a~e の項目ごとにあてはまり具合を教えてください。(それぞれ1つに ) n = 169

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともない	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
a . 治安が良い国だ	50.9	34.3	11.2	2.4	1.2	
b . 海外に比べ、信頼できる政府である	3.0	16.0	33.1	24.3	23.1	0.6
c . 今後、今まで以上に経済成長する	1.8	11.2	33.1	38.5	15.4	
c . アジアを先導する国であり続ける	7.7	21.9	29.0	28.4	11.2	1.8
e . 現在直面している社会問題を解決できる	3.6	8.9	27.8	39.6	20.1	
f . 日本の国際化は進展する	16.6	33.7	28.4	16.0	5.3	
e . 外国人労働者の受け入れに消極的である	12.4	24.3	43.2	14.8	5.3	

問 2 7 自分の将来についてどのように考えていますか。

下記の a~c の項目ごとにあてはまり具合を教えてください。(それぞれ1つに ) n = 169

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
a . 私は社会に貢献したい	26.0	42.6	18.9	6.5	5.9
b . 経済的に自立できる自信がある	13.0	28.4	38.5	12.4	7.7
c . 人や周りに左右されずに、自分がやりたい仕事をしたい	42.6	33.7	15.4	6.5	1.8

問28 あなたのこの文教大学湘南キャンパスをどのように考えていますか。

下記のa~fの項目ごとにあてはまり具合を答えてください。(それぞれ1つに ) n = 169

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
a. の大学の周辺環境に満足している	2.4	20.7	14.8	31.4	30.2	0.6
b. 他大学の学生とも交流しやすい大学である	3.6	5.3	12.4	28.4	50.3	
c. この大学に誇りを持っている。	6.5	14.2	30.2	23.1	26.0	
d. この大学に入って良かった	14.8	32.5	27.2	11.8	13.6	
e. この大学は居心地が良い	13.0	36.1	24.9	8.9	17.2	
f. この大学にいと、意識が内向きになりやすい	14.8	26.0	33.1	16.0	8.9	1.2

問29 あなたは、尊敬する人がいますか。(1つに ) n = 169

1. いる 87.6	2. いない 12.4
------------	-------------

問30 あなたは今の自分に満足していますか。(1つに ) n = 169

1. 大変満足 3.0	2. 満足 18.3	3. どちらともいえない 29.6
4. やや不満 25.4	5. 不満 23.7	

問31 あなたは自分を変える行動をしていますか。(1つに ) n = 169

1. している 33.1	2. したいが、実際にはしていない 55	3. していない 11.8
--------------	----------------------	---------------

あなた自身について教えてください。

F1. 性別(1つに ) n = 169

1. 男 48.5	2. 女 51.5
-----------	-----------

F2. 学年(1つに ) n = 169

1. 1年	2. 2年 26.6	3. 3年 59.8	4. 4年 13.6
-------	------------	------------	------------

F3. 学科(1つに ) n = 169

1. 広報学科 29.0	2. 経営情報学科 21.9	3. 情報システム学科 16.6
4. 国際理解学科 26.6	5. 国際観光学科 5.9	

F4. 世帯状況(1つに ) n = 169

1. 一人暮らし 58.0	2. 実家暮らし 36.7	3. その他 5.3
---------------	---------------	------------

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。